

## — 診療看護師の役割と活動 —

2022年4月より診療看護師（NP；nurse practitioner）として消化器・一般外科肝胆膵チームに配属となり、チーム医療の円滑化に向け医療と患者・医療従事者の架け橋となるよう業務にあたっています。当チームにはNPが2名在籍し、早朝カンファレンスから始まり、朝と夕の病棟回診、透視下での処置、入院患者の変化時の第一報連絡先、救急外来での初期対応、手術助手、血管留置デバイス（主にPICCs）の挿入など院内を横断的に活動しています。診療の補助行為のうち看護師が行える38項目の特定行為に限らず、診療看護師ならではの臨床推論やフィジカルアセスメント、相対的医行為を医師と共にいながら患者がより良い医療を受けられるよう尽力しています。



病棟勉強会（急変時対応）

NPは7つのコンピテンシー（①包括的な健康アセスメント能力②医療的処置管理能力③熟練した看護実践能力④看護管理能力⑤チームワーク・協働能力⑥医療・保健・福祉制度の活用・開発能力⑦倫理的意思決定能力）を生涯学習の中で獲得することを目指します。それらに必要な3P（①physical assessment；フィジカルアセスメント②pharmacology；薬理学③pathophysiology；病態生理学）に立ち返りながら日々の活動に勤めます。これら3Pは、看護基礎教育では不十分であることが指摘されており、NPとなった者が越えていなければならない壁として存在します。これらは自己研鑽（けんさん）に加え、監督医からの指導やチーム内での相談、カンファレンスなどを通じて一つひとつ習得していくことで、NPとしての基礎能力向上につながるものと考えています。

NPとしての能力を育む一方で、これまでの看護経験を生かすことも重要です。医師には直接言いにくい患者の訴えの聞き手になったり、同じ看護職として病棟やICU、手術室、外来等のスタッフと円滑なコミュニケーションを取ったりと、医療のボーダーレス化に寄与することも役割として期待されています。また、医師－医療従事者間でコミュニケーションが不足している場合には両者の間に立ち、患者のより良いゴールに向け、関わるスタッフが同じ目標を持てるよう協働しています。本院では所属診療科の関わりの多い看護部署に籍を置き、師長をはじめスタッフとも円滑な情報共有を行い、急変時対応などの勉強会も開催しチーム全体で患者に関わることに重点を置いています。

私自身は今年で診療看護師となってから12年目となりますが、まだまだ学ぶことが多く、これからも皆さまからたくさんのご指導ご鞭撻をいただけますと幸いです。